

袋井市にゆかりのある 武将の墓



古蹟図絵の源朝長供養塔 (図絵に加筆)



編集発行 袋井市歴史文化館
〒437-1102 静岡県袋井市浅名1028番地 (浅羽支所内)
TEL.0538-23-9269

参考図書 袋井市「袋井市史 通史編」1983年 羽衣出版
岩堀元樹「静岡戦国武将墓巡り」2011年 羽衣出版
神谷昌志「遠江古蹟図絵」1996年 明文出版社

17 西尾家墓塔群

所在地 掛川市西大淵 龍眠寺

龍眠寺には横須賀藩主西尾家代々の墓が残されている。横須賀藩での初代藩主は天和2(1682)年、信濃国小諸藩より移封となった忠成である。以来忠篤まで8代にわたって幕末まで横須賀藩主を務めた家柄である。

墓塔は東側より忠成の祖父忠永、父忠照、忠成、忠尚、忠篤、忠移、忠善、方向を東向きとして忠固、忠受の9基が整然とならべられている。忠永から忠尚塔までと灯籠がピンク色の伊豆安山岩製、忠篤と忠善塔は凝灰岩(埼玉大谷石?)製、忠利塔は砂岩製、忠固と忠受塔は安山岩製である。忠永から忠尚塔までの石質が類似すること、忠尚塔が中央に配置されていることから見て、忠篤が初回の再整備を行い、以後造塔を続けた墓所と思われる。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

18 本間氏清・丸尾義清供養塔

所在地 掛川市上土方嶺向 高天神城馬出曲輪

本間氏清と丸尾義清はともに丸尾和泉守の子で、後に氏清が本間家に養子に入った。本間家と丸尾家は親戚筋で、袋井市の穴ノ上村や小野田村を領地としていた武将である。戦国時代には徳川家康の家臣として、高天神城の防備にあっていた。天正2(1574)年、武田勝頼が攻めてきた際に、兄弟ともに高天神城の防備の要である堂の尾曲輪を守っていた。勝頼方の穴ノ上梅雪らの猛攻に遭い、二人とも討ち死にをし、氏清 28才、義清 26才のことであった。

供養塔は二の丸と堂の尾曲輪間の馬出曲輪に建てられている。かなり後の世に建てられたもので、高天神城の戦いの記念碑的な意味もつ供養塔であろう。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

19 小笠原義時・良忠供養塔

所在地 掛川市小貫 意正院

天正2(1574)年、武田勝頼が高天神城を攻めると、城主であった小笠原長忠(信興)は勝頼の軍門に降った。これに対して、一族のなかの小笠原義時、良忠は城を出て徳川家康の家臣となった。義時は清川の長男、良忠は義時の長男である。良忠は後に紀州徳川家の祖となった徳川頼宣の家臣となり、享年53才で没している。

供養塔は意正院裏山の墓地のなかにまつられている。ごく最近整備された供養塔であり、左が義時、右が良忠の供養塔とされている。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

編集発行 袋井市歴史文化館
〒437-1102 静岡県袋井市浅名1028番地 (浅羽支所内)
TEL.0538-23-9269

20 久世家墓塔群

所在地 掛川市西大淵 浄泉寺

久世氏は三河国額田郡出身の武将で、徳川家康の家臣であった。墓塔群は浄泉寺裏山に24基が残されている。最も古いものは中央に配された長宣夫婦と広宣夫婦の舟形墓塔である。長宣は永禄6(1563)年、三河一向一揆の際に家康に敵対し、討ち死にした。その子の長宣の代に赦され再び家康の家臣となり、後に大須賀康高の家臣、大須賀衆として活躍し、寛永3(1626)年、享年66才で没した。笠塔婆形の墓塔なかで古いものは広宣の長男広当の墓塔で、万治3(1660)年、享年64才で没している。

舟形墓塔はいずれも伊豆安山岩(伊豆石)製であるが、笠塔婆のなかには砂岩製のものも含まれる。なお、長宣夫婦塔の形は江戸時代前期のものであるため、広宣塔とともに広当が建てたと考えられる。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

21 大草家墓塔群

所在地 磐田市新貝 連城寺

大草氏は徳川家康の家臣であった。大草一族の墓塔が連城寺西側の山腹の墓地内にまつられている。南向きにコの字形に配置された墓塔群のうち、西側に存在する五輪塔を刻み込んだ舟形墓塔(後背五輪塔)4基が古いものである。西列の手前が正家夫婦、正面の左端は正信夫婦の合葬墓塔である。正家は家康に仕えた後、鎌田の地の代官を務めた。元和5(1619)年に没すると、はじめは鎌田の墓地に葬られたが、連城寺に改装されたという。正家の長男である正信も引き続きこの地の代官を務め、元禄3(1690)年、享年84才で没した。

舟形墓塔はいずれも伊豆安山岩(伊豆石)製で、後に砂岩製を含む笠塔婆に変遷するようである。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

編集発行 袋井市歴史文化館
〒437-1102 静岡県袋井市浅名1028番地 (浅羽支所内)
TEL.0538-23-9269

22 北条氏重供養塔

所在地 和歌山県高野町 高野山奥の院

高野山奥の院には、織田信長や武田信玄などの戦国武将や、近世大名の巨大な供養塔が林立している。弘法大師廟に至る参道の途中に、北条氏重の供養塔も存在しているので、ここで紹介したい。

氏重の供養塔は花崗岩製の大型五輪塔で、基壇の蓮華文は上下二段となる高野山型五輪塔の形態を示している。高野山での大名供養塔の形式は、上杉謙信墓は木造廟、福井の結城秀康墓は石廟となっているが、基本は石造五輪塔である。石材も結城秀康墓の石廟のように頼国方面から持ち込んだ笏谷石製は例外で、多くは畿内産の花崗岩製である。

江戸時代の奥の院は近世大名から見て聖なる霊場であり、中世から続いた納骨信仰が巨大な供養塔として形を変えて出現したものと考えられる。

「静岡戦国武将墓巡り」2011年 岩堀元樹 羽衣出版

編集発行 袋井市歴史文化館
〒437-1102 静岡県袋井市浅名1028番地 (浅羽支所内)
TEL.0538-23-9269

